

京都女子大学国際交流センター一年報

Annual Report 2024

Kyoto Women's University
International Center

京都女子大学

学設法人京都女子学園

京都女子大学
国際交流センター

Kyoto Women's University
International Center

目次	1	Contents	1
1) 巻頭言	2	1) Foreword	2
2) 研究ノート	3	2) Research Papers	3
3) 協定締結	10	3) Agreements	10
4) 協定大学留学（派遣）・交換留学（派遣）	13	4) Study Abroad at Partner Universities	13
5) 留学生受入れ	13	5) Acceptance of international students	13
① 正規留学生（受入）	13	① Regular International Students (Admitted)	13
② 交換留学生（受入）	13	② Exchange study-abroad students	13
③ 日本語プログラム	14	③ Japanese Language Program (15 weeks)	14
④ 日本語強化プログラム	14	④ Intensive Japanese Language Program (30 weeks)	14
⑤ サマープログラム	14	⑤ Summer Program (3 weeks)	14
6) 語学研修プログラム	15	6) Language training programs for KWU students	15
① 国内英語研修講座	15	① English training course in Japan	15
② 国内研修講座（フランス語・ドイツ語）	15	② Domestic language training course (French and German)	15
③ 海外語学研修講座	15	③ Overseas language training course	15
④ 海外研修型日本語教育実習	16	④ Overseas training program for Japanese language education	16
7) 学科独自プログラム	16	7) Departmental programs	16
① 現代社会学科短期英語研修	16	① Short-term English training course for the Department of Contemporary Society	16
② 現代社会学科多文化理解実習	16	② Cross-cultural Studies for the Department of Contemporary Society	16
③ 食物栄養学科「フランス食文化体験研修」	16	③ Department of Food and Nutrition "French Food Culture Experience Training Program	16
8) 国際化 SD 研修会	16	8) Staff Development Workshop on internationalization	16
9) KWISS 活動実績	17	9) KWISS activities	17
10) グローバル英語プログラムの開設準備	21	10) Preparation for the establishment of the Global English Program	21
11) 令和7年度言語コミュニケーション科目の授業運営にかかる業務委託の準備	21	11) Preparation for Outsourcing the Classroom Management of Language Education Courses in the Academic Year 2025	21
12) 言語教育専門委員会の設置準備	21	12) Preparation for the Establishment of the Specialized Committee on Language Education	21
13) 海外大学・高校からの訪問	21	13) Visits from overseas universities and high schools	21
14) 海外大学との交流	23	14) Exchange with foreign universities	23
15) 国際化方針（2025～2029）の策定	24	15) Internationalization Policy (2025-2029)	24
16) 私費外国人留学生対象の奨学金制度	25	16) Scholarships program for privately financed international students	25
17) 本学を修了した留学生の活躍状況	26	17) Activities of international students who have graduated/completed their studies at KWU	26

1) 巻頭言



特命副学長（国際化推進担当）
国際交流センター長 劉 小俊

新型コロナウイルス感染拡大の影響が次第に小さくなるにつれ、2024年度は前年度よりさらに人的交流が活発になった一年であったと同時に、国際交流事業が発展をした一年でもあった。6ヶ国・地域の10大学と新たに16の交流協定を締結したほか、新規事業である高度日本語プログラムと学期期間中のサマープログラムも順調に実施された。海外協定大学の大学院生を対象とする高度日本語プログラムは16名の受講生を迎え、充実したプログラムを提供した。6月には国立シンガポール大学のサマープログラムを本学で実施し、学生間の交流が大いになされた。また、副専攻としての「グローバル英語プログラム」の開設準備も整え、将来的に海外留学者の増加につながる事が期待される。さらに、5月上海で開催された日本留学フェア in 中国、6月大阪 OMM ビルで開催された韓国留学博覧会、9月桜美林大学で開催された日中国際シンポジウム、11月東京で開催された第10回日中教育交流会に参加するなど、本学を積極的にアピールするために、教職員が一丸となって力を尽くしてきた。

2024年を顧みて、相変わらず多くの方々のご尽力、ご協力を得た一年となった。この機会を借りて、当センターの運営に携わる国際交流センター運営委員会の皆様、センターの業務を支える国際交流課の皆様並びに国際交流センター員とセンターの活動に関心を示し、協力して下さった皆様に深く感謝の意を申し上げます。

1) Foreword



Liu, Xiaojun
Vice-President Extraordinary
Director of International Center
(Professor, Ph.D.)

As the impact of the spread of COVID19 gradually diminished, 2024 was a year in which people-to-people exchanges increased over previous years. In addition, the international exchange program also saw numerous developments during the year. 16 new agreements with 10 universities in 6 countries and regions have been signed. In addition, during 2024 two new programs, the Advanced Japanese Language Program and the Summer Program during the semester were also implemented smoothly. A total of 16 graduate students from overseas partner universities participated in the Advanced Japanese Language Program. In June, the National University of Singapore Summer Program was held at our university, and there was a great deal of exchange among the students. Preparations are also underway for the establishment of a "Global English Program" as a minor. Furthermore, to actively promote our university, faculty and staff came together to participate in various social gatherings and events. Looking back on 2024, it has been a year of effort and cooperation from as many people as ever. I would like to express my gratitude to all of them.

2) 研究ノート

大学における国際交流協定締結の課題—京都女子大学における学生交換協定開拓を事例として

城戸 英樹（立命館大学）

1. はじめに

日本の高等教育機関、特に大学の国際交流協定締結過程にはどのような課題や困難があるのだろうか。大学を含めた教育の国際化、グローバル化が叫ばれて久しい。そのような中で、大学が海外大学等の教育機関と国際交流協定を結ぶことは珍しいことではない。実際、2017 年度には全国の国公私立大学で 41,626 件の協定が存在したが、2021 年度には 50,929 件とコロナ禍を経験したにもかかわらず 2 割以上増加している¹。このように、日本の大学において、国際交流協定の重要性は増してきている。しかし、海外の大学との国際交流協定を締結するうえでどのような課題や困難があるのかについては、これまで十分に明らかにされてこなかった。本稿では、京都女子大学における国際交流協定締結過程を検討することで、大学における国際交流協定締結の課題や困難とは何かという問いに取り組む。

大学の国際交流に関する研究では、国際交流協定が締結された後に、実際の交流をどのように進めていくのか、また、どのような課題が存在するのかが主に扱われてきた。例えば、野田（2013）は、群馬大学における留学生受け入れのためのプログラムを検討し、受け入れ側の教員負担や留学生の帰国後の課題を指摘している。次に安藤など（2013）では、岩手県立大学看護学部における国際交流の課題について、アンケート調査をもとに教員間での情報共有の必要性などが指摘されている。このように、すでにある協定に基づいて、各大学でどのような取り組みがなされているのかについては、一定の研究蓄積がある。

それに対して、そもそものようにして国際交流協定が締結されるのか、また、その過程でどのような困難があるのかについては、これまで十分には明らかにされてこなかった。公的な形で海外大学との国際交流を行う場合には、大学間、もしくは大学部局間の国際交流協定²を締結することが一般的である。具体的な学生交換などについては、この国際交流協定とは別に学生交流協定などを締結する場合が多い。この点で、国際交流協定締結は、大学の国際交流の出発点と位置付けることができる。

そこで、本稿では国際交流協定締結にどのような課題や困難があったのかについて、協定締結に携わった当事者の視点から検討する。筆者は京都女子大学現代社会学部国際社会専攻設立に際し、北米³の大学との交流拡大を担当した。筆者が京都女子大学に着任した 2015 年当時の京都女子大学が北米地域に持っていた国際交流協定校は、アルバータ大学（カナダ）とチャタム大学（アメリカ）の二校であった⁴。そのため、2017 年国際社会専攻創設を控え、国際志向の学生を受け入れるために、北米など英語圏の協定校数が少ないこと、また英語圏への学生の長期留学を支える学生交換協定締結大学がないことが課題と考えられた。それを受けて、北米圏に学生を派遣することのできる大学を開拓する必要があると認識された。

その中で、筆者は 2016 年度以降、協定大学開拓を担当し、北米のいくつかの大学との協定締結に携わった⁵。本稿では、これらの経験に基づき、北米の大学での協定大学開拓において京都女子大学がどのような課

¹ 文部科学省（2024）「海外の大学との大学間交流協定、海外における拠点に関する調査結果（令和 4 年度実績）」を参照。

² 本稿では、Agreement of Cooperation、Memorandum of Understanding など大学間もしくは部局間の包括的な学術交流協定を指して国際交流協定と呼ぶ。

³ 本稿では、北米地域として、英語圏であるアメリカとカナダを想定して議論を行う。

⁴ これらのほかに、英語学習や夏季プログラム等に限定した協定締結校が二校あった。また、本稿の分析期間中に筆者が協定締結に関わっていない北米の新規締結大学も存在する。

題を持っていたのか、また、逆にどのような優位点があったのかを検討する。分析の対象となる期間は、筆者が京都女子大学において国際交流分野を担当していた 2016 年度から 2022 年度までである。限られた事例ではあるが、これまで十分に情報が蓄積されてこなかった領域において情報提供を行うという意味で、本稿は新たな貢献を行う。京都女子大学は、学部学生数およそ 5,000 人の中規模大学であり、多くの日本の大学にとっては共通する課題があるだろう。

本稿は、以下のように構成される。まず、第 2 章では、本稿の事例である京都女子大学について概観する。次に、第 3 章では一般的に北米の大学との協定を締結するうえで課題となることは何かについて論じる。第 4 章では、京都女子大学が持っている固有の強みと弱みについて取り上げる。最後に、第 5 章では本稿のまとめを行う。

2 京都女子大学の概要

ここでは、本稿の対象である京都女子大学について概観しておこう。2025 年 2 月時点で京都女子大学は学部学生、大学院生を合わせて学生数約 6,000 人の中規模私立大学である⁶。主なキャンパスは京都市東山区にあり、西本願寺との関係が強い仏教系の女子大学である。2024 年度には、7 学部 5 大学院研究科からなる総合大学となっている。学部の構成は文系が主になっているが、データサイエンス学部など理系の学部も含まれている。女子大学であるため、大学院生を含めて女子学生のみを受け入れている。

京都女子大学の国際関係に目を向けると、2024 年度の海外協定大学数は 16 の国・地域の 63 校に及んでい

る。近年、アジア地域を中心に国際交流協定数の拡大、留学生の受け入れ増加、学生の海外留学の支援など、大学の国際化を推進している⁷。その中で、京都女子大学から海外の大学等に留学した学生数は、長期、短期、海外研修を合わせて 2023 年度には 81 人である⁸。海外の大学等から受け入れている留学生の数は、長期、短期、サマープログラムを合わせて 92 人になっている⁹。これらの学生派遣、留学生受け入れは、いずれも何らかの国際交流協定や授業実施に基づく海外留学に参加した学生数であり、公的な国際交流の数である。そのため、学生が私的に参加する語学研修や海外留学は含まれていない。

3 北米大学との協定締結における課題

ここでは、京都女子大学の北米の大学との協定締結交渉において、どのような課題や困難があったのかを述べる。ここで注意が必要なのは、本稿の対象が 2016 年度から 2022 年度までであり、コロナ禍の期間を含んでいることである。コロナ禍により、国際交流は大きな打撃を受けたが、その後急速に回復している。そのため、本稿であげた課題が妥当しなくなっている部分もあるかもしれないことは、あらかじめ指摘しておきたい。

第一に、学生の相互の長期留学制度を可能にする学生交換協定の締結を視野に入れた交渉における課題を取り上げる。交渉先の大学から相互に学生を派遣する協定を締結するための大きな課題として指摘されたのは、日本への留学を希望する学生の数と北米への留学を希望する学生の数のアンバランスであった。一般的に、アメリカ、カナダから日本への留学を希望する学

⁵ 筆者が関わり協定締結に至った大学は、カナダで 5 大学、アメリカで 1 大学である。ただし、本文でも触れる通り、一つの大学との協定は残念ながら更新されなかった。また、ピクトリア大学については、English Language Centre との語学プログラムにかかわる協定であるため、本稿では直接検討対象とはしていない。

また、本稿の記述は、特に明示しない限り、交渉大学との E-mail のやり取り、交渉の場での会話に基づいて構成している。ただし、交渉内容の機微にかかわるような表現は避け、また相手大学については基本的に匿名で記している。

⁶ 「京都女子大学在籍者数・社会人学生数」参照。

⁷ 詳細は「京都女子大学国際化方針（2021～2024）」を参照。

⁸ 京都女子大学「留学生数及び海外派遣学生数」を参照。

⁹ 京都女子大学「留学生数及び海外派遣学生数」を参照。

生はそれほど多くない。例えば、2023年度の北米から日本の高等教育機関への留学生の数は、長期と短期を合わせて3,792人であった¹⁰。これに対して、日本の大学等から北米の大学等に留学している学生数は、長期と短期を合わせて18,615人に及ぶ¹¹。

このアンバランスは、日本に対する長期的な関心の低下¹²とも相まって、北米の大学との学生交換を新規開拓することを困難にしている。つまり、北米から日本に留学したい意向を持つ学生が限られる中で、北米の大学が新たに日本の大学と学生交換を行う誘因は大きくない。特に、北米の多くの大学はすでに日本の大学との間で学生交換協定を締結しており、新規に協定を締結する余地は限られたものになっている。

次に、京都女子大学において英語で開講されている授業の数が問題とされる場合があった。交換留学を目指す協定締結交渉においては、ほぼすべての大学から京都女子大学で日本文化や日本社会に関する英語の講義がどれくらい、またどのようなカリキュラムに沿って開講されているのかを尋ねられた。

交渉当時の京都女子大学においては、全学教養科目の中で京都に関する英語授業が開講されていた。また、各学部では英語を講義言語とする授業が複数開講されていた。例えば、現代社会学部では、「Japan Studies1」、「Japan Studies2」という科目が、英語ネイティブの教員によって開講されていた。また、相互に学生を派遣するという視点からいうと、日本に留学するのだから学生に一定の日本語能力があることは当然のようにも思える。実際、京都女子大学の学生が北米の大学に留学する際には、一定の英語能力を要求される。仮に、日本に関心があるが日本語は苦手であるという北米の大学からの留学生がいるならば、語学としての日本語の授業を履修するという可能性もありうる。実際、京都女子大学においては、留学生向けの日本語科目も設定されており、これらの科目と英語開講科目を合わせれば、一定数の留学生向け科目を保証する体制をとっていた。

しかし、北米の大学にとっては、単に英語での授業が開講されているということだけではなく、その授業が一貫したテーマや専門領域に沿った科目として提供されているかどうかが問題とされた。また、その授業を履修する京都女子大学の学生の英語力について、質問されることもあった。さらに、クラス内の受講生の英語力に差がある場合、必ずしも留学生の英語力に見合った授業内容にならない可能性があるとの懸念が示されたこともある。

このように、外国語系の大学を除けば、交換留学を新規開拓しようという日本の多くの中規模大学においては以上の課題は概ね共通しているだろう。学生交換を行うためには、そもそも日本に関心がある海外の学生がいる必要があるが、日本に対する関心は、アニメに代表されるような文化面を除くとそれほど大きなものではない。また、日本研究の学部があるなど、日本に関心を持つ学生がいる大学では、すでに日本の大学との協定を締結済みであることが多く、新たに協定を締結する余地は小さい。

また、英語での授業展開についても、数としてあるだけではなく、どのような内容なのか問われる。この点で、必ずしも英語に堪能な学生だけではない中規模の私立大学において英語での授業提供をどのように整備するのかということも課題として挙がるだろう。

他方で、日本から北米の大学へ一方向の学生派遣については、このような障害は大きくはない。日本の大学から北米の大学に留学生を派遣する場合には、留学する学生は留学先の大学に授業料等を支払う必要がある。日本からの留学生を受け入れる北米の大学にとっては、授業料収入を得られるというメリットがあり、協定締結に向けた障害はその分低くなる。

実際、北米の大学の多くは、公立であれ私立であれ、留学生向けに国内や州内の学生よりも高い授業料を設定している。例えば、カナダを代表する大学の一つであるトロント大学（州立）では、州内の学部学生の授

¹⁰ 日本学生支援機構（2024）、「高等教育機関における外国人留学生受入れ状況」を参照。

¹¹ 日本学生支援機構（2024）、「2022（令和4）年度日本人学生留学状況調査結果」を参照。

¹² 例えば、学術面については、政治学における日本への研究関心は低下傾向にあることが指摘される（Lipsky2023）。これは、必ずしも日本の重要性が低下していることを示すわけではないが、大学間交流の基礎となる教育、研究面での日本への関心の低下を示唆する。

業料が6,100カナダドル（約640,000円）、州外の学生が約6,900カナダドル（約725,000円）であるのに対して、留学生の授業料は約62,000ドル（約6,510,000円）に設定されている¹³。

また、主要な世界大学ランキングの一つを出しているQSの記事によれば、アメリカの公立大学の州内学生授業料の平均は約10,000ドル（1,500,000円）、州外学生（留学生含む）の授業料の平均は約26,000ドル（3,900,000円）となっている¹⁴。これを見るとわかるように、留学生一人を受け入れることは、北米の大学にとっては、国内（州内）学生の少なくとも2倍以上の授業料収入を得られることを意味する。この点では、日本の大学から留学生を受け入れることは、北米の大学にも一定のメリットが存在することがわかる。留学生として国内学生より高い授業料が期待でき、学位は派遣元の大学で出すために、受け入れ大学の負担は小さくなる。

一方で、こちらから留学する学生にとっては、多くの場合、自分が所属している大学よりも高い授業料を負担する必要がある。一年間で400万円近い授業料を負担できる学生数は限られており、一方向の学生派遣協定を締結したとしても、より多くの学生が海外留学する機会を確保するということに直接はつながらない。この点に関しては、現所属大学の授業料を免除や軽減することにより学生の負担軽減を図ることが一般的だろう。また、それとは別に追加的な奨学金の給付などの手段も考えられる。いずれにせよ、派遣元の日本の大学にとっては、追加的な財政負担がかかることを意味するために、中規模大学でこのようなプログラムを大規模に実施することは容易ではない。

4 京都女子大学の持つ強みと弱み：国際交流協定の交渉過程から

第3章で見たように、北米の大学と新規の学生交換協定を締結することには一定の難しさがあることがわかる。本章では、そのような状況下で京都女子大学が

どのようにして北米の大学との国際交流協定交渉を進めてきたのかを概観する。それによって、京都女子大学が海外の大学との交渉を進めるうえで持つ強みと弱みを検討する。

まず、京都女子大学の持つ強みを見ていこう。京都女子大学の持つ強みの一つが、京都に位置する大学であるという地理的な側面である。協定締結交渉を行う際には、まず各大学の国際課に相当する部署にコンタクトをとる。筆者が交渉先を選定するのにあたっては、少なくとも日本研究もしくは日本語を学ぶ過程（学部、学科、プログラム）が設置されていることを条件としてしていた。これは、学生交換を行うためには、日本に関心を持つ学生が一定数いることが必要になると考えたためだった。さらに、大学のホームページで日本のどの大学とすでに国際交流協定を結んでいるのかも調査した。これは、すでに多くの協定大学がある場合は、新規に協定を結ぶ必要性が乏しいだろうと考えたからである。

コンタクトを取った大学の国際課からの反応は様々で、まったく返信がない大学から、協定締結には関心がないと門前払いされる場合もあった。最終的に、協定に関心があるという返信があった大学は、コンタクトを取った大学の3分の1程度だった。ただしその場合も、学生交換は難しいが受け入れであれば可能という大学が多くを占めた。

いずれにせよ、関心があるという返信があった大学の多くについては、実際に訪問し対面で交渉を行った。その場合、先方の大学の日本関係のプログラムの教員が交渉に同席するケースが多かった。これは、交渉先の大学の国際課にとっても、どれくらいの学生が京都女子大学に関心を持ちそうなのかを把握する側面もあっただろう。その大学で日本研究を行っている教員の専門性にもよるが、日本における京都の重要性は認識されており、京都女子大学の立地は魅力的だという反応を受けることが多かった。また、関東圏の大学とは協定を結んでいるが、関西圏の大学とは結んでいないと

¹³ 2024-2025 年の新入生一年目の学費である。1 カナダドル=105 円で計算している。

¹⁴ Bridgestock (2024) を参照。1 アメリカドル=150 円で計算している。

いう交渉先もあり、その点でも京都に立地しているということは強みとなった¹⁵。

次に、女子大学であることは京都女子大学の大きな特徴の一つである。北米では、リベラルアーツ系の大学を中心にいまだに女子大学は少ないながらも存在している。しかし、多くの大学は共学のため、女性のみを留学生として受け入れることができるという京都女子大学の特徴は、多くの場合プラスとはならない。

例えば、女性のみを派遣することについて、両性の平等という観点から大学内での検討が必要になるといった反応がいくつかの大学ではあった。他方で、女性のみを派遣については問題ではなく、そのような環境で学ぶ経験は学生にとっても貴重であるという反応もあった。もちろん、交渉を開始している時点で京都女子大学との学生交換に後ろ向きな大学ではないため、このような反応になった可能性はある。しかし、この点から見ると、女子大学であることは必ずしもマイナスではなく、プラスの側面もあったことがわかる。

第三の特徴は、仏教系の大学であることについてである。この点については、開拓を開始する前に、懸念を持っていた。カナダの場合、ほとんどすべての大学は公立（州立）であり、政府と宗教の関係から、特定の宗教に立脚する大学との交渉が難しくなる可能性を考えていた。結論からいえば、仏教系の大学であることが交渉の障害になることはなかった。アメリカではキリスト教系の大学などもあり、カナダの大学でも大学の中に教会などの宗教施設があることは珍しくない。その点で、宗教系の大学に対するハードルは高くなかった。

最後に、交渉を進めるうえで重要だったのは、交渉先の大学の担当者である。最初にコンタクトをとった際に、ポジティブな反応があり、組織として協定締結には何等か前向きに考えている大学と交渉を行っている。しかし、北米の大学では、交渉の担当者の裁量が大きい点が、交渉を進めるうえで重要となった。そもそも、最初にコンタクトをとる時点で、日本に関心を持つ担当者がいない場合は、ネガティブな反応となる。その意味で、日本に関心がある担当者の存在は、交渉

に必須といえる。この点では、協定開拓において、完全に属人的な側面があることは否定できない。

このような属人的な側面は、協定の継続性という観点からはマイナスになりえる。国際交流協定はおおむね3年から5年で更新を迎える。更新の際に当初の担当者が継続して担当している場合はそれほど問題ではないが、担当者が交代している場合がある。その交代した担当者が日本との関係に前向きではない場合、協定更新が困難になる場合がある。実際、コロナ禍という特殊事情があったにもかかわらず、学生交流が進んでいないという理由で更新を拒否された協定先も存在する。

しかし、このような属人的な部分は、こちら側でコントロールできない要因なので、最終的には現実の学生交流を推進していくことが、関係を継続するためのカギとなる。この点では、京都女子大学の国際交流支援体制が問われている。先述したとおり、留学生の受け入れについては、体系的な英語での授業提供を増やす可能性がある。しかし、体系的に英語の授業を増やすことにはカリキュラムをどう構成するのかなど大きな困難が伴う。この点で、京都女子大学が体系的に日本語プログラムを構築していることは評価されるだろう。筆者が協定開拓を行っていた当時は、日本語プログラムの立ち上げ期であり、日本語プログラムが徐々に拡充されていた。交渉先の大学で日本語教育を担当する教員が同席していた場合、京都女子大学の日本語プログラムは、好意的に受け止められた。この点は、京都女子大学の強みの一つといえる。

5 本稿のまとめ

本稿では、京都女子大学における北米大学との国際交流協定締結交渉を事例として、大学の国際化にどのような課題があるのかを検討してきた。その中では、まず、大きな背景として、日本に関心を持つ北米の学生が少なくなっている可能性を指摘した。日本に対する関心が低下する中で、北米の大学側から新たに日本の大学と学生交換を行う必要性も低下してきている。今後新たに国際交流協定を開拓する際には、この

¹⁵ これは裏返せば、そのような大学だからこそ京都女子大学に関心を持ったということもできるだろう。

ことを踏まえていかに北米の大学の日本に対する関心を引き出すのが課題になる。

次に、日本に関心を持つ大学との交渉を開始した後に課題となる事柄として、英語で開講される科目の数と科目間の連携があげられる。ここでは、ただ単に英語で科目を開講しているということでは十分ではなく、それらの科目がいかに体系的に構築されているのかを示す必要がある。このような英語での科目展開は、外国語系の学部を持たないような中規模大学にとっては、課題となりうる。これに対応するために、英語科目を充実させるという方策もあり得る。しかし、多くの中規模以下の大学において、そのようなプログラムを恒久的に維持することは、コストとリスクを伴う。

そのような科目群を交換の受け入れ学生のみに開放するという事は、海外からの留学生数が多い大学にとっては、現実的な選択ではない。そうすると、日本人の学生に対しても開放すればよいのだが、英語を専門とする学生以外にとって、英語力の壁が立ちふさがるだろう。もちろん、英語圏の大学への留学をひかえているような学生を対象として、英語科目を提供するという選択肢はある。

また、京都女子大学にみられるように、日本語教育を充実させることで、海外の大学に向けたアピールを行うという選択肢もある。この選択肢をとる場合も一定のコストは発生するが、アジア圏を中心に日本語学習意欲のある学生はいまだに一定数存在する。そのため、英語での授業を開講する場合と比較するとリスクは抑えられる。また、日本人学生に提供しないことにより、プログラムを閉鎖するという選択肢をとる場合の将来的なコストも抑えられる。

また、現実的な解決策の一つとしては、日本の大学から北米の大学への一方向の派遣プログラムが考えられる。その際、日本側には、大学と学生の双方に主に経済的な負担が発生する。このような負担を行っても学生の海外留学を推進すべきなのかどうかについては、個々の大学の判断になる。

次に、京都女子大学に目を向けると、北米の大学との国際交流を開拓するうえで、京都女子大学にはいくつかの強みと課題がある。まず、京都に位置する女子大学であるという特徴は、京都女子大学にとっては強

みになりうる。京都の持つ歴史的な重要性を背景にして、女子大学だからこそできる経験を押し出すことは、今後新規開拓を行う際には、大学の強みとなる。

今後、京都女子大学が国際交流を推進するうえで、北米地域での協定開拓がどのように行われ、どのような課題があるのかを共有することには、一定の意義があるだろう。本稿の中で担当者の重要性について指摘したが、それは京都女子大学側にも言えることである。教員も事務職員も同じ人物が永続的に国際交流を担当するとは限らない。担当者が交代するたびに情報の継承が行われなければ、それは継続的な国際交流の発展を阻害するだろう。情報の共有と継承という点で、本稿がその一助となれば筆者にとっては望外の喜びである。

付記：本稿の内容は筆者個人の見解であり、筆者の現所属大学である立命館大学、京都女子大学のいずれの見解も代表していない。

京都女子大学において海外交流業務に携わった経験がなければ、本稿の執筆はあり得なかった。京都女子大学には、筆者が担当した北米圏を含む国際交流の推進を支援していただいた。また、協定締結交渉に際しては、国際交流課の支援なくしては国際交流協定締結には至らなかった。国際交流協定の交渉においては、大学の既存の制約やルールを乗り越えなければ達成できなかったことも多くあった。非常に限られた財政的・人的資源の中で、筆者の交渉を支えていただいた歴代担当者の皆さん、国際交流課のスタッフの皆さんに感謝したい。最後に、締結当時の学長で協定締結の署名のためにカナダまでお越しいただいた林忠行先生、北米への出張に何度もご一緒いただいた現代社会学部の松田哲先生、当時の現代社会学部国際社会専攻の先生方をはじめとする、現代社会学部の先生方とスタッフの皆さんに心から感謝申し上げたい。

参考文献リスト

安藤広子・野口恭子・千田睦美・遠藤良仁・蛭崎奈津子・武田利明・ダガンスーザン・関屋一博、(2013)、「岩手県立大学看護学部における国際交流活動の展望」、『岩手県立大学看護学部紀要』、15 巻、67-73 頁。

京都女子大学、「京都女子大学国際化方針（2021～2024）」

(<https://www.kyoto-wu.ac.jp/international/kokusai.html>)、最終アクセス：2025 年 2 月 25 日。

――、「京都女子大学在籍者数・社会人学生数」

(<https://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/jouhou/jouhou/rhnb30000000507g-att/rhnb30000000ac4l.pdf>)、最終アクセス：2025 年 2 月 25 日。

日本学生支援機構、(2024)、『2023（令和 5）年度外国人留学生在籍状況調査結果』

(https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2024/04/data2023z.pdf)、最終アクセス：2025 年 2 月 25 日。

――、(2024)、『2022（令和 4）年度日本人学生留学状況調査結果』

(https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2024/04/data2022n.pdf)、最終アクセス：2025 年 2 月 25 日。

野田岳人、(2013)、「群馬大学における特色のある留学生プログラム －『J プログラム』と『日本研究実践プログラム』」、『群馬大学国際教育・研究センター論集』、12 号、51-58 頁。

文部科学省、「海外の大学との大学間交流協定、海外における拠点に関する調査結果（平成 29 年度から令和 3 年度実績）」、

(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/1287263.htm)、最終アクセス：2025 年 2 月 25 日。

Bridgestock, Laura. (2024). “How much does it cost to study in the US?”

(<https://www.topuniversities.com/student-info/student-finance/how-much-does-it-cost-study-us>)、最終アクセス：2025 年 2 月 21 日。

Lipsy, Phillip Y. (2023). “Japan: The Harbinger State.” *Japanese Journal of Political Science*, 24 (1), pp.80-97.

3) 協定締結

2024 年度には以下の大学との間で包括協定、学術交流に関する協定を更新・締結を行った。

【新規】

1. ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジ (NICE) (米国)
締結日：2024 年 4 月 25 日
協定名：Memorandum of Understanding for Cooperation and Exchange between The University of Hawai'i at Mānoa and Kyoto Women's University
2. 山西财经大学 (中国)
締結日：2024 年 5 月 9 日
協定名：日本国 京都女子大学と中国 山西财经大学との学術交流協力協定書
中国山西财经大学与日本京都女子大学学术交流合作协议
3. 国立台北教育大学 (台湾)
締結日：2024 年 5 月 18 日
協定名：Memorandum of Understanding for Academic Collaboration Between Kyoto Women's University, Japan and National Taipei University of Education, Taiwan
4. 国立台北教育大学 (台湾)
締結日：2024 年 8 月 8 日
協定名：Agreement on Student Exchange between Kyoto Women's University, Japan and National Taipei University of Education, Taiwan
5. 魯東大学 (中国)
締結日：2024 年 8 月 20 日
協定名：日本国 京都女子大学と中国 魯東大学との学術交流協力協定書
中国鲁东大学与日本京都女子大学学术交流合作协议
6. ハワイ大学マノア校 (HELP) (米国)
締結日：2024 年 8 月 27 日
協定名：MEMORANDUM OF UNDERSTANDING between Kyoto Women's University and the Hawaii English Language Program (HELP), University of Hawai'i at Mānoa
7. ボルドー工科大学 (フランス)
締結日：2024 年 8 月 30 日
協定名：Memorandum of Understanding between Kyoto Women's University and Bordeaux Institute of Technology
PROTOCOLE D'ACCORD ENTRE UNIVERSITÉ FÉMININE DE KYOTO ET L'INSTITUT POLYTECHNIQUE DE BORDEAUX

3) AGREEMENTS

In fiscal year 2024, we have renewed and concluded agreements for comprehensive agreements and academic exchanges with the following universities.

【New Agreement】

1. The University of Hawai'i at Mānoa Outreach College (U.S.A.)
Effective date: April 25, 2024
Memorandum of Understanding for Cooperation and Exchange between The University of Hawai'i at Mānoa and Kyoto Women's University
2. Shanxi University of Finance and Economics (China)
Effective date: May 9, 2024
Agreement for Academic Exchanges and Cooperation between Kyoto Women's University and Shanxi University of Finance and Economics
3. National Taipei University of Education (Taiwan)
Effective date: May 18, 2024
Memorandum of Understanding for Academic Collaboration Between Kyoto Women's University, Japan and National Taipei University of Education, Taiwan
4. National Taipei University of Education (Taiwan)
Effective date: August 8, 2024
Agreement on Student Exchange between Kyoto Women's University, Japan and National Taipei University of Education, Taiwan
5. Ludong University (China)
Effective date: August 20, 2024
Agreement for Academic Exchanges and Cooperation between Kyoto Women's University, Japan and Ludong University, China
6. Hawaii English Language Program (HELP), University of Hawai'i at Mānoa (U. S. A.)
Effective date: August 27, 2024
MEMORANDUM OF UNDERSTANDING between Kyoto Women's University and the Hawaii English Language Program (HELP), University of Hawai'i at Mānoa
7. Bordeaux Institute of Technology (France)
Effective date: August 30, 2024
Memorandum of Understanding between Kyoto Women's University and Bordeaux Institute of Technology
PROTOCOLE D'ACCORD ENTRE UNIVERSITÉ FÉMININE DE KYOTO ET L'INSTITUT POLYTECHNIQUE DE BORDEAUX

8. ボルドー工科大学（フランス）
締結日：2024 年 8 月 30 日
協定名：Specific Agreement on Student, Staff and Researchers Mobility between Bordeaux Institute of Technology (France) and Kyoto Women's University (Japan)
9. ボルドー大学（フランス）
締結日：2024 年 9 月 30 日
協定名：Framework Agreement For International Cooperation Between The University of Bordeaux and Kyoto Women's University
10. 魯東大学（中国）
締結日：2024 年 10 月 10 日
協定名：京都女子大学と魯東大学との日本語プログラム履修生の派遣に関する合意書
中国 魯東大学と日本 京都女子大学有关派遣日语课程进修生的协议书
11. シンガポール国立大学（シンガポール）
締結日：2024 年 10 月 10 日
協定名：Mutual Acknowledgment of the Summer Program between National University of Singapore and Kyoto Women's University
12. 淑明女子大学校（韓国）
締結日：2024 年 10 月 28 日
協定名：Agreement on Academic Exchange between Sookmyung Women's University and Kyoto Women's University
13. 淑明女子大学校（韓国）
締結日：2024 年 10 月 28 日
協定名：Joint Study Abroad and Student Exchange Agreement between Sookmyung Women's University and Kyoto Women's University
14. 煙台大学（中国）
締結日：2024 年 11 月 29 日
協定名：日本国 京都女子大学と中国 煙台大学との学術交流協力協定書
中国 烟台大学と日本京都女子大学学术交流合作协议
15. 煙台大学（中国）
締結日：2024 年 11 月 29 日
協定名：日本国 京都女子大学と中国 煙台大学との日本語プログラム履修生の派遣に関する合意書
中国 烟台大学と日本 京都女子大学有关派遣日语课程进修生的协议书
16. カセサート大学（タイ）
締結日：2025 年 3 月 7 日
協定名：日本国 京都女子大学とタイ王国カセサート大学との学術交流及び協力に関する協定
8. Bordeaux Institute of Technology (France)
Effective date: August 30, 2024
Specific Agreement on Student, Staff and Researchers Mobility between Bordeaux Institute of Technology (France) and Kyoto Women's University (Japan)
9. The University of Bordeaux (France)
Effective date: September 30, 2024
Framework Agreement For International Cooperation Between The University of Bordeaux and Kyoto Women's University
10. Ludong University (China)
Effective date: October 10, 2024
Agreement for the Japanese Language Program of Kyoto Women's University between Kyoto Women's University and Ludong University
11. National University of Singapore (Singapore)
Effective date: October 10, 2024
Mutual Acknowledgment of the Summer Program between National University of Singapore and Kyoto Women's University
12. Sookmyung Women's University (Korea)
Effective date: October 28, 2024
Agreement on Academic Exchange between Sookmyung Women's University and Kyoto Women's University
13. Sookmyung Women's University (Korea)
Effective date: October 28, 2024
Joint Study Abroad and Student Exchange Agreement Between Sookmyung Women's University and Kyoto Women's University
14. Yantai University (China)
Effective date: November 29, 2024
Agreement for Academic Exchanges and Cooperation between Kyoto Women's University, Japan and Yantai University, China
15. Yantai University (China)
Effective date: November 29, 2024
Agreement for the Japanese Language Program of Kyoto Women's University between Kyoto Women's University and Yantai University.
16. Kasetsart University (Thailand)
Effective date: March 7, 2025
Agreement for Academic Exchanges and Cooperation between Kasetsart University, Thailand and Kyoto Women's University, Japan

現在有効な協定（種別・協定数）一覧

協定種別	協定数
協定大学留学（派遣）	12
交換留学（派遣・受入）	11
英文学科留学プログラム（派遣）	3
海外語学研修（派遣）	12
日本語プログラム・サマープログラム（受入）	10
包括協定	53
編入学・国内英語研修	3
日本語強化プログラム（受入）	8

List of current agreements (type and number of agreements)

Agreement Type	Number of Agreements
Study Abroad at Partner Institutions	12
Exchange Program	11
Study Abroad for Students of Department of English Studies	3
Overseas Language and Culture Training	12
Japanese Language Program, Summer Program	9
Memorandum of Understanding	53
Transfer Students, English Training in Japan	3
Intensive Japanese Language Program	8

4) 協定大学留学（派遣）・交換留学（派遣）

2024 年度には以下のとおり海外協定校に学生を派遣した。

【協定大学留学（全学対象）】

（1 年間）

アルバータ大学（カナダ）	2 名
オーストラリアン・カトリック大学（オーストラリア）	1 名

【交換留学（全学対象）】

（前期より 1 年間）

静宜大学（台湾）	1 名
----------	-----

（前期より半年間）

梨花女子大学校（韓国）	1 名
-------------	-----

（後期より半年間）

静宜大学（台湾）	1 名
誠信女子大学校（韓国）	1 名

【英文学科留学プログラム】（後期半年）

アルバータ大学（カナダ）	2 名
ウェスタン・オーストラリア大学（オーストラリア）	6 名

5) 留学生受入れ

① 正規留学生（受入）

2024 年度外国人留学生入試において大学院文学研究科史学専攻（博士前期課程）に 1 名、発達教育学研究科教育学専攻（博士前期課程）に 3 名が入学した。また、家政学部生活造形学科に 1 名、現代社会学部現代社会学科に 1 名、法学部法学科に 2 名が入学した。

2024 年度在籍 外国人正規留学生数

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
学部	4		1	1
博士前期	4			
博士後期		1	1	

② 交換留学生（受入）

2024 年度は、前期から 2 名（1 年）、後期から 6 名（半年 4 名、1 年 2 名）の交換留学生を受け入れた。

（1 年）

静宜大学（台湾）	2 名（前期より）
誠信女子大学校（韓国）	2 名（後期より）

（半年）

杭州師範大学（中国）	2 名（後期より）
誠信女子大学校（韓国）	2 名（後期より）

4) Study Abroad at Partner Universities

We sent students to the following partner universities abroad in FY 2024.

【Study Abroad at Partner Universities】

(One year)

University of Alberta (Canada)	2
Australian Catholic University (Australia)	1

【Exchange Study Abroad at Partner Universities】

(One year from the first semester)

Providence University (Taiwan)	1
--------------------------------	---

(Half year from the first semester)

Ewha Womans University (Korea)	1
--------------------------------	---

(Half year from the second semester)

Providence University (Taiwan)	1
Sungshin University (Korea)	1

【Semester Study Abroad Program for the Department of English Studies】

University of Alberta (Canada)	2
The University of Western Australia (Australia)	6

5) Acceptance of international students

① Regular International Students (Admitted)

In FY 2024, one international student was admitted to the Graduate School of Letters, History course (master's program), and three were admitted to the Graduate School of Human Development and Education, Education course. In addition, one student was admitted to the Department of Apparel and Space Design, one to the Department of Contemporary Society, and two to the Department of Law.

Number of Regular International Students

	Freshman	Sophomore	Junior	Senior
Undergraduate	4		1	1
Graduate (M)	4			
Graduate (D)		1	1	

②Exchange study-abroad students

In FY2024, two first semester exchange students (one year) and six second semester exchange students (four half-year students and two one-year students) were accepted.

(One year)

Providence University (Taiwan) (from the first semester)	2
Sungshin Women's University (Korea) (from the second semester)	2

(Half year)

Hangzhou Normal University (China) (from the second semester)	2
Sungshin University (Korea) (from the second semester)	2

③ 日本語プログラム

2024 年度から協定大学の大学院生を対象により高度で実践的な日本語能力を身につけるための高度日本語プログラムをあらたに開設し、日本語プログラム全体で、春学期に 25 名、秋学期に前期からの継続者を含め 20 名を受け入れた。

学期	人数（継続者を含む）
春学期（前期）	日本語プログラム生 14 名 高度日本語プログラム生 11 名
秋学期（後期）	日本語プログラム生 15 名 高度日本語プログラム生 5 名

国・地域	在籍大学	2024
中国	広東外語外貿大学	10
中国	杭州師範大学	8
中国	南京曉莊学院	7
中国	集美大学	5
中国	太原科技大学	4
中国	西安外国語大学	4
中国	山東師範大学	3
中国	山西師範大学	2
中国	曲阜師範大学	1
中国	四川師範大学	1

④ 日本語強化プログラム

2024 年度は 2023 年度に引き続き 1 名（半年）の履修生を受け入れることができた。本プログラムは募集人数を大きく下回る応募しかなく、今後本プログラムのあり方について検討が必要となっている。

⑤ サマープログラム

2024 年度は従来のサマープログラム（8 月開催）に加え、新たにシンガポール国立大学で日本語を学ぶ学生を対象にしたサマープログラム（6 月開催）を実施した。いずれのプログラムも履修生からは好評を得ており、次年度以降も継続して実施する予定である。

a) サマープログラム（6 月開催—シンガポール国立大学）

開始初年度ということもあり、募集人員 15 名に対し、6 名の参加となった。

実施期間：2024 年 6 月 6 日（木）～6 月 26 日（水）

b) サマープログラム（8 月開催）

8 月に実施されたサマープログラムでは海外協定大学 8 大学より 40 名の学生を受け入れた。

実施期間：2024 年 7 月 31 日（水）～8 月 15 日（木）



③ Japanese Language Program (15 weeks)

In FY2024, the Advanced Japanese Language Program was newly established for graduate students from partner universities to acquire more advanced and practical Japanese language skills. 25 students in the spring semester and 20 students in the fall semester, including those who continued from the previous semester, were accepted into the program.

Semester	Number of students
Spring (the first semester)	Japanese Language Program 14 Advanced Japanese Language Program 11
Fall (the second semester)	Japanese Language Program 15 Advanced Japanese Language Program 5

Country/Region	Name of University	2024
China	Guangdong University of Foreign Studies	10
China	Hangzhou Normal University	8
China	Nanjing Xiaozhuang University	7
China	Jimei University	5
China	Taiyuan University of Science and Technology	4
China	Xi'an International Studies University	4
China	Shandong Normal University	3
China	Shanxi Normal University	2
China	Qufu Normal University	1
China	Sichuan Normal University	1

④ Intensive Japanese Language Program (30 weeks)

In FY2024 we were able to accept one student (half year) as in FY2023. The number of applicants for this program was much lower than the number of openings, and we need to consider the future of this program.

⑤ Summer Program

In FY2024, in addition to the existing summer program (held in August), a new summer program for the National University of Singapore was held in June for students studying Japanese at the National University of Singapore.

Both programs were well received by the students and will be continued in subsequent fiscal years and beyond.

a) Summer program for the National University of Singapore

Only 6 students participated compared to the 15 recruited because this was the first year of the program.

Thursday, June 6, 2024 - Wednesday, June 26, 2024



b) Summer Program (held in August)

The summer program held in August welcomed 40 students from 8 partner universities abroad.

Wednesday, July 31, 2024 – Thursday, August 15, 2024

国・地域	在籍大学	2024
韓国	誠信女子大学校	22
台湾	華梵大学	1
中国	山西師範大学	5
中国	南京曉莊学院	3
中国	山西財經大学	3
中国	四川師範大学	3
中国	山西大学	2
中国	閩南師範大学	1

Country/ Region	Name of University	2024
Korea	Sungshin University	22
Taiwan	Huafan University	1
China	Shanxi Normal University	5
China	Nanjing Xiaozhuang University	3
China	Shanxi University of Finance and Economics	3
China	Sichuan Normal University	3
China	Shanxi University	2
China	Minnan Normal University	1

6) 語学研修プログラム

① 国内英語研修講座

海外留学や海外生活への準備、本物のアメリカの大学の授業を体験すること、模擬国連への参加を通してグローバルな問題を他国の視点から考察すること、スピーチやライティングを通して英語での表現力や議論力を養うこと、映像や口頭でのプレゼンテーション能力を磨くことを目的として、滋賀県にあるミシガン州立大学連合日本センターで実施した。

(夏期)

2024年9月4日(水)～9月11日(水) 【8日間】

ミシガン州立大学連合日本センター 9名



② 国内語学研修講座 (フランス語・ドイツ語)

前年度に引き続き、2025年3月3日(月)から3月14日(金)の期間、国内においてフランス語・ドイツ語の国内語学研修講座を実施する予定で募集を行ったが、予定人数が集まらず中止となった。

③ 海外語学研修講座

2024年度は8カ国8大学において実施された海外語学研修講座に114名の学生が参加した。

(夏期)

アルバータ大学 (カナダ)	19名
チチェスター大学 (英国)	12名
西カトリック大学 (フランス)	5名
ウィーン大学 (オーストリア)	5名
北京語言大学 (中国)	5名
梨花女子大学校 (韓国)	20名

6) Language training programs for KWU students

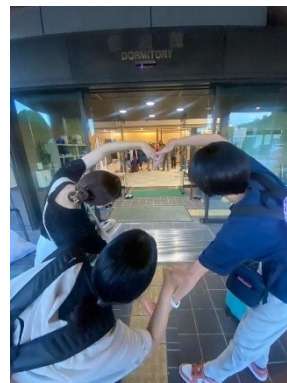
① English training course in Japan

The goals of the program were to prepare students for studying and living abroad, to experience real American university classes, to examine global issues from the perspective of other countries by participating in a mock United Nations, to cultivate the ability to express and discuss in English through speaking and writing, and to improve visual and oral presentation skills. The program was held at the Japan Center for Michigan Universities in Shiga Prefecture, Japan.

(Summer)

Wednesday, September 4, 2024 - Wednesday, September 11, 2024
at the Japan Center for Michigan Universities

Number of participants: 9 students



② Domestic language training course (French and German)

As in the previous fiscal year, the French and German language training courses scheduled to be held in Japan from Monday, March 3 to Friday, March 14, 2025 were canceled due to a lack of applicants.

③ Overseas language training course

In the fiscal year 2024, 114 students participated in language training abroad at eight universities in eight countries.

(Summer)

University of Alberta (Canada)	19
University of Chichester (England)	12
Catholic University of the West (France)	5
Innovation Center, University of Vienna (Austria)	5
Beijing Language and Culture University (China)	5
Ewha Language Center (Korea)	20

(春期)

オーストラリアン・カトリック大学 (オーストラリア)	20 名
ハワイ大学マノア校 (HELP) (米国)	15 名
梨花女子大学校 (韓国)	13 名

④ 海外研修型日本語教育実習

2024 年度日本語教師課程では以下のとおり 3 つの海外研修型実習プログラムを実施し、計 3 名が参加した。

(夏期)

Catherine McAuley Westmead (オーストラリア) 中学・高等学校での研修	1 名
--	-----

(春期)

Hutt Valley High School (ニュージーランド) 中学・高等学校での研修	1 名
Green Bay High School (ニュージーランド) 中学・高等学校での研修	1 名

7) 学科独自プログラム

① 現代社会学科短期英語研修

2024 年度はカナダのレジャイナ大学において約 3 週間の短期英語研修 A を実施し、現代社会学科の学生 5 名が参加した。

2025 年 2 月 2 日 (日) 出発～2 月 23 日 (日) 帰国 (22 日)

② 現代社会学科多文化理解実習

2024 年度はカナダ及び台湾での多文化理解実習を募集したが、応募者が無く実施が見送られた。

③ 食物栄養学科「フランス食文化体験研修」

ボルドー大学でのポスター発表、ボルドー工科大学での食文化体験を含む文化交流等を実施した。

2025 年 3 月 19 日 (水) ～3 月 28 日 (金) (10 日間)

8) 国際化 SD 研修会

2024 年度の国際化 SD 研修会では、2023 年度に海外協定大学へ留学し帰国した学生 7 名から留学先での体験や留学を通して学んだこと、今後の目標等の報告を受けることにより、教職員が留学について考え、学生への指導等に資する機会を設けた。

(報告者の留学先)

アルバータ大学 (カナダ)
ウェスタン・シドニー大学 (オーストラリア)
梨花女子大学校 (韓国)
静宜大学 (台湾)

開催日時： 2024 年 7 月 10 日 (水)

(Spring)

Australian Catholic University (Australia)	20
University of Hawai'i at Manoa (HELP)(U.S.A)	15
Ewha Language Center (Korea)	13

④ Overseas training program for Japanese language education

In 2024, two overseas training programs for Japanese language teaching course were conducted as follows, with a total of 3 students participating.

(Summer)

Internship in Japanese Language Education with Catherine McAuley Westmead (Australia)	1
---	---

(Spring)

Internship in Japanese Language Education with Hutt Valley High School (New Zealand)	1
Internship in Japanese Language Education with Green Bay High School (New Zealand)	1

7) Departmental programs

① Short-term English training course for the Department of Contemporary Society

In FY2024, "Intensive English Course A" was conducted for about 3 weeks at University of Regina in Canada, with 5 students from the Department of Contemporary Society participating.

February 2 (Sun) – February 23 (Sun), 2025 (22 days)

② Cross-cultural Studies for the Department of Contemporary Society

The cross-cultural study in Canada and the cross-cultural study in Taiwan were not conducted in FY 2024 due to a lack of applicants.

③ Department of Food and Nutrition "French Food Culture Experience Training Program

The program included a poster presentation at the University of Bordeaux and a cultural exchange including a food culture experience at the Bordeaux Institute of Technology.

March 19 (Wed) - March 28 (Fri), 2025 (10 days)

8) Staff Development Workshop on internationalization

At the SD Internationalization Workshop in FY2024, seven students who studied abroad at partner universities in FY2023 and returned to Japan shared their experiences, lessons learned, and future goals. The workshop provided an opportunity for faculty and staff to discuss study abroad and contribute to student advising.

(Study abroad universities)

University of Alberta (Canada)
Western Sydney University (Australia)
Ewha Womans University (Korea)
Providence University (Taiwan)

Date: Wednesday, July 10, 2024

9) KWISS 活動実績

3月29日（金）

新規留学生サポート（前期）

新規留学生の区役所での各種手続きのサポート実施

4月2日（火）

新規留学生キャンパスツアー（前期）

新規留学生に対し食堂の利用方法紹介、キャンパスツアーを実施

4月3日（水）

新規留学生サポート（前期）

新規留学生の口座開設、図書館利用ガイダンスのサポート実施

4月5日（金）

日本語プログラム履修生、交換留学生開講式（前期）

ウェルカムパーティーの実施

5月21日（火）

お出かけ交流会

本学の留学生を対象に平安神宮、京都市動物園へのツアー実施



6月6日（木）～26日（水）

シンガポール国立大学サマープログラム

シンガポール国立大学サマープログラム参加生に対しキャンパス紹介、日本文化研修のサポート、交流イベントの企画を実施



9) KWISS activities

Friday, March 29

Support for New International Students (1st Semester)

Assist new international students with various processes in the district offices

Tuesday, April 2

Campus Tour for New International Students

Getting to know the Cafeteria and Campus Tour for new international students

Wednesday, April 3

Support for New International Students (1st Semester)

Support for new international students in the opening of bank accounts and guidance on library use

Friday, April 5

Opening Ceremony for Japanese Language Program Students and Exchange Students (1st Semester)

Hosting a Welcome Party

Tuesday, May 21

International Student Exchange Program

Conducted tours of Heian Shrine and Kyoto City Zoo for international students.



Thursday, June 6 - Wednesday, June 26

Summer Program for National University of Singapore

Provide campus introductions, assist with Japanese cultural training, and plan exchange events for students participating in the National University of Singapore Summer Program.



6月18日（火）

龍谷大学との交流会

龍谷大学の留学生とシンガポール国立大学学生、京都女子大学留学生を対象に風鈴づくりを実施。



7月10日（水）

留学生交流会

皆でお菓子を食べて交流しつつ、夏祭りの代表的な催しものである射的になぞらえて割り箸鉄砲作り（および紙ヒコーキ作り）をし、夏の日本文化を体験してもらった。

8月1日（木）

サマープログラム交流会

サマープログラムに参加した留学生とゲームを実施



8月20日（火）

日本語プログラム履修生修了式（前期）

留学生との思い出の映像を制作し、記念品をプレゼントした。

9月6日（金）

新規留学生サポート（後期）

新規留学生の区役所での各種手続きのサポート実施

9月10日（火）

新規留学生キャンパスツアー（後期）

新規留学生に対し食堂の利用方法紹介、キャンパスツアーを実施

9月11日（水）

新規留学生サポート（後期）

新規留学生の口座開設、図書館利用ガイダンスのサポート実施

9月12日（木）

日本語プログラム履修生・交換留学生開講式（後期）

開講式後のウェルカムパーティーの実施

Tuesday, June 18

Exchange meeting with the international students of Ryukoku University

Conducted wind bell making for international students from Ryukoku University, National University of Singapore, and Kyoto Women's University.



Wednesday, July 10

International Student Exchange Program

While everyone mingled and ate sweets, they experienced Japanese summer culture by making disposable chopstick guns (and paper planes) in the style of a typical summer festival event: shooting games.

Thursday, August 1

Exchange Events for Summer Program Participants

Playing games with the international students who are participating in the summer program

Tuesday, August 20

Graduation Ceremony for Japanese Language Program (1st Semester)

KWISS produced a video commemorating the international students and presented them with a memento.



Friday, September 6

Support for New International Students (2nd Semester)

Assist new international students with various processes in the district offices

Tuesday, September 10

Campus Tour for New International Students

Getting to know the Cafeteria and Campus Tour for new international students

Wednesday, September 11

Support for New International Students (2nd Semester)

Support for new international students in the opening of bank accounts and guidance on library use

Thursday, September 12

Opening Ceremony for Japanese Language Program Students and Exchange Students (2nd Semester)

Hosting a Welcome Party

9月29日(日)

お出かけ交流会

本学の留学生を対象に京都市府立植物園へのツアー実施



Sunday, September 29

Outing Social Events

Conducted tours of Kyoto Botanical Garden for international students.



10月23日(水)

華道交流会

本学の留学生を対象に日本の伝統的な華道体験を実施



Wednesday, October 23

Flower arrangement social gathering

Conducted a traditional Japanese flower arranging experience for international students



11月13日(水)

スポーツ大会

本学の留学生を対象にドッジボール、フラフープなどのスポーツ大会を実施

Wednesday, November 13

Conduct sports events

Conducted sports competitions for international students, including dodgeball and hula hooping

11月26日(火)

龍谷大学との交流会

龍谷大学において龍谷大学の留学生、本学留学生が異なる国の文化や制度の違いを理解し交流を深める会を実施

Tuesday, November 26

Exchange meeting with the international students of Ryukoku University

A meeting was held at Ryukoku University for the international students of Ryukoku University and the international students of KWU to deepen the understanding of the differences in cultures and systems of different countries and to deepen the exchange.



12月8日(日)

国際寮 KOMATSU 寮生との交流

国際寮 KOMATSU 在寮生と合同で年内最後のイベントとして皆で料理を作って親睦を深めた。当日は餃子とベビークラスターを一緒に作って日本人寮生と留学生が交流を行った。



Sunday, December 8

Exchange with students of the International Dormitory KOMATSU

As the last event of the year, KWISS deepened their friendship by cooking together with students from International Dormitory KOMATSU. Japanese and international students made gyoza (dumplings) and baby sponge cake together and had a chance to interact with each other.



2025年2月14日(金)

日本語プログラム履修生・交換留学生修了式(後期)

修了式終了後のパーティーにおいて、2024年度の前期・後期の留学を終えて帰国する留学生との思い出の映像を制作・上映し、留学生に記念品をプレゼントした。



Friday, February 14, 2025

Graduation Ceremony for Japanese Language Program Students and Exchange Students (2nd Semester)

At the party following the graduation ceremony, KWISS produced and screened a video of memories with exchange students who completed their studies in the first and second semesters of FY2024, and presented them with a commemorative gift.



10) グローバル英語プログラム開設準備

留学を希望する学生や英語運用能力の向上を目指す学生が一定期間（1 回生～3 回生）集中的に履修できるように副専攻プログラムとして「グローバル英語プログラム」を 2025 年度より開設するための準備を行った。

1～2 回生にかけて、まず、IELTS を中心に英語運用能力を高め、2～3 回生時には、国際的な場で求められる、グローバルな問題意識と主体的な発言力を養い、異文化コミュニケーションや国際ビジネス等をテーマとしたグループディスカッションやゲストスピーカーによる授業を行う予定である。本プログラムではグローバルな問題意識と主体的な発言力を持ったグローバル人材を養成することを目的とし、プログラム修了時の英語力の到達目標として、IELTS 6.0 以上をめざしている。

11) 令和 7 年度言語コミュニケーション科目の授業運営業務にかかる業務委託の準備

「本学の国際化推進及び言語教育体制の整備に向けた基本方針」に基づき、令和 6 年度末で雇用契約が終了する非常勤講師が担当する科目について、授業運営業務の一部を専門業者に委託することとなり、委託業者の選定業務を行った。

12) 言語教育専門委員会の設置準備

本学の外国語教育（全学共通科目「言語コミュニケーション科目」を含む）及び「国際理解科目」の充実、並びに外国語を中心とした言語教育に関する研究を推進し、学術の発展に寄与することを目的に、令和 7 年度国際交流センター内に「言語教育専門委員会」を設置するための準備を行った。今後は、国際交流センターの言語教育・研究部門を強化し、学長方針及び次期国際化方針に基づく各種事業を企画・推進していく予定である。

13) 海外大学・高校からの訪問

2024 年度は、本学と協定を締結する大学 6 校と高校 1 校の訪問があり、本学との交流発展について意見交換等をおこなった。また、3 つの海外大学交流会に参加をした。

訪問等のあった大学、日時、内容については以下のとおりである。

10) Preparation for Establishment of Global English Program

Preparations have been made to establish the Global English Program as a minor starting in the 2025 academic year, so that students who wish to study abroad or improve their English language skills can take the program intensively for a period of time (freshman to junior year).

In the first and second years, students will focus on improving their English language skills, primarily through the IELTS, and in the second and third years, they will develop their awareness of global issues and their ability to speak independently in international settings through group discussions and classes with guest speakers on topics such as intercultural communication and international business.

The program is designed to produce global citizens with global awareness and the ability to speak independently, and aims for an English proficiency level of IELTS 6.0 or higher by the end of the program.

11) Preparation for Outsourcing the Classroom Management of Language Education Courses in the Academic Year 2025

Based on the "Basic Policy for Promotion of Internationalization and Improvement of Language Education System at KWU", it was decided to outsource part of the classroom management for courses taught by part-time lecturers whose employment contracts expire at the end of the academic year 2024 to a specialized contractor. The International Center was responsible for selecting the contractor.

12) Preparation for the Establishment of the Specialized Committee on Language Education

Preparations have been made to establish a "Specialized Committee on Language Education" within the Center for International Exchange in 2025, with the aim of improving KWU's foreign language education and "International Understanding Courses," promoting research on language education with a focus on foreign languages, and contributing to academic development. In the future, we plan to strengthen the Language Education and Research Division of the Center for International Exchange, and plan and promote various projects based on the President's Policy and the next internationalization policy.

13) Visits from overseas universities and high schools

In FY2024, six universities and one high school that have signed agreements with KWU visited us and exchanged views on the development of exchanges with KWU. We also participated in three overseas university exchange meetings. The following is a list of the universities visited, the dates, and the contents.

6月9日(日) 魯東大学(中国)

副学長一行 5 名が本学を訪問し、両大学間の交流の可能性について意見交換を行う。

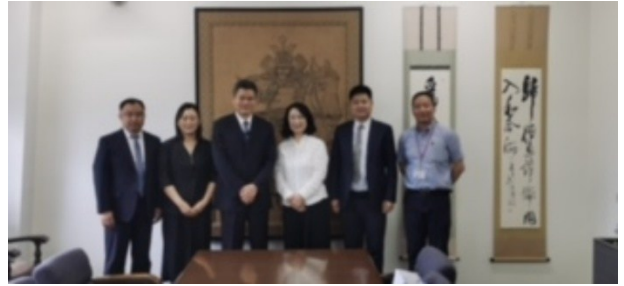
6月14日(金) 豫章師範学院(中国)

学長一行 6 名が本学を訪問し、両大学間の交流の可能性について意見交換を行う。



Sunday, June 9, Ludong University (China)

Five members, including the vice president of Ludong University, visited KWU and exchanged views on the possibility of exchanges between the two universities.



Friday, June 14, YuZhang Normal University (China)

Six members, including the president of YuZhang Normal University, visited KWU and exchanged views on the possibility of exchanges between the two universities.

10月23日(水) サセックス大学(英国)

国際交流部署の担当者の訪問を受け、本学協定大学留学(派遣)、英文学科留学プログラムについて意見交換を行う。

Wednesday, October 23, University of Sussex (UK)

Receive a visit from a representative of the International Exchange Office and discuss study abroad at the University of Sussex and the English Department's study abroad programs.

10月29日(火) 煙台大学(中国)

煙台大学の副学長一行 4 名の表敬訪問を受け、本学のカリキュラムや日本語プログラム等について意見交換を行い、本学協定書を手渡した。

Tuesday, October 29, Yantai University (China)

Four members, including the vice president of Yantai University, visited KWU and exchanged views on the possibility of exchanges between the two universities and handed over a draft of the university agreement.

11月22日(金) 山東師範大学(中国)

海外協定大学特別研究員及び日本語プログラム履修生を本学に派遣している山東師範大学より副学長一行 6 名の訪問を受けた。本学施設見学後、両大学の今後の交流について意見交換を行った。



Friday, November 22, Shandong Normal University (China)

KWU hosted a delegation of six members of the Vice President's Group of Shandong Normal University, which is sending a research fellow and Japanese language program students to KWU.

After touring the KWU campus, the future exchanges between the two universities were discussed.

11月26日(火) 湖南工業大学(中国)

副学長一行 5 名が本学を訪問し、両大学間の交流の可能性について意見交換を行った。

Tuesday, November 26, 2024, Hunan University of Technology (China)

Five members, including the vice president of Hunan University of Technology, visited KWU and exchanged views on the possibility of exchanges between the two universities.

2025 年 3 月 3 日（月） 上海文来中学（中国）

本学との交流協力合意書を締結している上海文来中学（高校）から校長以下 2 名の表敬訪問を受け、上海文来中学（高校）との指定校入試制度について意見交換を行い、本学において海外高校との指定校入試制度について検討を行うこととなった。

14) 海外大学との交流

① 日本留学フェア in 中国 5 月 18 日（土）

本学が協定を締結する上海文来中学で実施された第 1 回日本大学中国巡回教育展（日本留学フェア in 中国）に参加し、大学紹介、学術交流会に参加した。
併せて、本学との協定締結を希望する上海杉達学院の担当者と国際交流協定について打ち合わせを実施した。

② 韓国留学博覧会 6 月 9 日（日）・10 日（月）

大阪 OMM ビルで開催された韓国留学博覧会に参加し、本学協定校である梨花女子大学校、淑明女子大学校、誠信女子大学校等の担当者と面談した。

③ 2024 日中教育国際シンポジウム 9 月 17 日（火）

上海市教育委員会が主催する日中国際シンポジウム（於：桜美林大学）に参加した。基調講演、日中の各大学の事例が紹介の後、大学間の交流が行われた。

④ 第 10 回日中教育交流会 11 月 13 日（水）

第 10 回日中教育交流会に特命副学長・国際交流センター長劉小俊、国際交流センター講師姜紅祥が参加した。劉特命副学長は当日午後の「日中大学学長フォーラム」において本学の国際化と女性人材の育成、国際交流と IT 技術の活用などについて講演したほか、姜講師は本学の出展ブースに訪れた関係者に対応し、本学の取り組みを紹介し、資料を配布した。今回の交流会は文部科学省、中国大使館が後援で、約 100 校の日本と中国の大学・高校が参加した。本学の出展ブースには多くの大学と高校の関係者が訪問し、本学との交流について意欲を示した。



Monday, March 3, 2025, Shanghai Wenlai Middle School (China)

The principal and the person in charge of exchange paid a courtesy visit to KWU from Shanghai Wenlai Middle School, with which KWU has an exchange agreement, and exchanged views on the designated school entrance examination system with Shanghai Wenlai Middle School.

KWU will consider a designated school entrance examination system with Shanghai Wenlai Middle School.

14) Exchange with foreign universities

① Japan Education Fairs in China: Saturday, May 18

KWU participated in the 1st Japan University China Traveling Education Exhibition (Japan Education Fair in China) held at Shanghai Wenlai Junior High School, with which KWU has signed an agreement. At the fair, KWU introduced the university to the relevant people and held an academic exchange session. At the same time, KWU held a meeting to discuss an international exchange agreement with the person in charge of Sanda University, which is interested in signing an agreement with KWU.

② Study-In-Korea Education Fair: Sunday, June 9 and Monday, June 10

Attended the Korean Study Abroad Expo at the OMM Building in Osaka and met with representatives from Ewha Womans University, Sookmyung Women's University, Sungshin Women's University.

③ Japan-China International Symposium: Tuesday, September 17

Participated in the Japan-China International Symposium (Shanghai China Education Exhibition) organized by the Shanghai Municipal Board of Education (at Oberlin College, Tokyo). Keynote speeches and case study presentations from Japanese and Chinese universities were followed by inter-university exchanges.

④ the 10th Japan-China Educational Exchange Conference: Wednesday, November 13

Liu Xiao Jun, Extraordinary Vice President and Director of the International Center, and Jiang Hongxiang, Senior Lecturer of the International Center, participated in the 10th Japan-China Educational Exchange Conference. Vice President Liu gave a lecture on KWU's internationalization and promotion of female human resources, international exchange and use of IT technology at the "Japan-China University Presidents Forum" held in the afternoon of the same day. This exchange event was supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) and the Chinese Embassy, and was attended by about 100 universities and high schools from Japan and China. Many university and high school officials visited KWU's booth and expressed their enthusiasm for exchanges with KWU.



15)国際化方針（2025～2029）の策定

現在の国際化方針が 2024 年度をもって終了することから、新たに 2025 年度から 2029 年度までの 5 年間の国際化方針を策定した。

京都女子大学国際化方針（2025～2029）

京都女子大学は、創立以来、女性教育のパイオニアとして多様な分野で活躍する女性を輩出してきました。本学では親鸞聖人の体した仏教精神を基調とした教育を行うことを建学の精神としています。その目的は、仏教を通して自己の姿を知ることにあります。私たちは、自己中心的なものの見方から逃れる事は出来ません。それを十分理解した上で、違った価値観を持つ人々と共に生きていかなければなりません。

京都女子大学は、女性の社会的地位向上とグローバル社会の発展に貢献する女性人材の養成に取り組み、「アジアにおける女性人材養成の拠点校」を目指して、学長の強力なリーダーシップのもとで次の課題に取り組みます。

1. 国際化のさらなる推進

国際交流に関する学長の意思決定ならびに教職協働と各部署間の連携のもと全学的な国際化を推進する。

2. 海外大学等と多様な教育・研究交流の推進

海外の大学と積極的に学術交流等協定を締結し、協定大学のニーズに応え、大学院生を含む学生交流を中心とする多様な教育連携（交換留学、協定留学等）を図るとともに、留学生に対する日本語教育の強化に向けて体制を再構築します。また、研究者交流を中心とする学術交流（共同研究等）の推進を図ります。

3. 正規留学生の増加・留学生に対する学修支援・就職支援の充実

海外の高校等と教育交流に関する協定を拡充するとともに、国内外の留学希望者への相談会等に積極的に参加するなど留学生数を増加させます。海外指定校推薦制度を確立して学部正規留学生を確保します。留学生の増加に対応して、留学生に対する学修支援体制及び就職支援体制を強化します。

4. 地域のグローバル化への貢献

外国人教員及び外国人研究員による公開講座の開催、外国人留学生の地域行事参加や企業インターンシップを促進し、留学生と地域住民との交流機会を設け、地域のグローバル化に貢献します。

15) Internationalization Policy (2025-2029)

Since the current internationalization policy will end in FY2024, a new 5-year internationalization policy has been formulated from FY2025 to FY2029.

Kyoto Women's University Internationalization Policy (2025-2029)

Since its founding, Kyoto Women's University has been a pioneer in women's education, producing women who are active in various fields. The founding spirit of Kyoto Women's University is to provide education based on the Buddhist spirit embodied by Shinran Shonin. The purpose of this education is to understand the self through Buddhism. We cannot escape our self-centered viewpoint. We must live with people who have different values with a full understanding of this.

Kyoto Women's University, under the strong leadership of its president, will address the following issues with the goal of becoming a "Center for the Development of Female Human Resources in Asia" by working to raise the social status of women and cultivating female human resources who will contribute to the development of a global society.

1. Further promotion of internationalization

Promote university-wide internationalization based on the President's decision regarding international exchange with faculty and staff collaboration and interdepartmental cooperation.

2. Promote diversified educational and research exchanges with overseas universities, etc.

We will proactively conclude academic exchange agreements with overseas universities, etc., and in response to the needs of partner universities, we will seek diverse educational cooperation focusing on student exchanges (exchange students, study abroad agreements, etc.), including graduate students, and rebuild our system to strengthen Japanese language education for foreign students. In addition, we will promote academic exchanges (joint research, etc.), focusing on the exchange of researchers.

3. Increase the number of regular international students and strengthen academic and employment support for international students.

Increase the number of international students by expanding educational exchange agreements with overseas high schools, etc., and by actively participating in consultation meetings for those wishing to study in Japan and overseas. Secure regular international undergraduate students by establishing a recommendation system for designated schools overseas. In response to the increase in the number of international students, we will strengthen the academic and employment support systems for international students.

4. Contributing to the Globalization of the Region

We will contribute to the globalization of the region by holding open lectures by foreign faculty members and foreign researchers, by encouraging foreign resident students to participate in local events and corporate internships, and by creating opportunities for exchange between foreign students and local residents.

5. 学生の留学・海外研修の充実

中長期留学や海外研修を推進し、海外大学等での学び方や海外研修プログラムの多様化を図るとともに、本学学生と留学生との交流の機会を増やします。また、英語や学科の専門に関する研修先及び留学先の拡充をはかります。

6. 国際理解科目と外国語教育の充実・発展

国際理解科目にグローバル英語プログラム（副専攻）を開設し、学生の留学促進・グローバル人材の養成を目指し、学生の国際交流への積極的な参加を促進します。言語コミュニケーション科目や各種語学研修を充実・発展させ、留学に必要な語学力を身につけるとともに、グローバル社会における外国語教育の多様化を図ります。

5. Enhancement of Study Abroad and Overseas Training for Students

We will promote medium- and long-term study abroad and overseas training programs, diversify study methods and overseas training programs at foreign universities and other institutions, and increase exchange opportunities between our students and foreign students. In addition, we will expand training and overseas study opportunities related to English and departmental specialties.

6. Enhance and develop international understanding courses and foreign language education

We will establish a Global English Program (minor) in international understanding courses to promote students' active participation in international exchanges, encourage students to study abroad, and develop global human resources. We will improve and develop language communication courses and various language training programs to acquire the language skills necessary for studying abroad and to diversify foreign language education in a global society.

16) 私費外国人留学生対象の奨学金制度

2024 年度より私費外国人留学生を対象とした奨学金制度運用が開始された。2024 年度入学試験を受験し入学した学部正規留学生を対象とした私費外国人留学生入試成績優秀特別奨学金において、家政学部生活造形学科に入学した学生が選定され、2024 年 5 月 13 日劉国際交流センター長より採用証書が授与された。

本制度により留学を希望する外国人留学生に対し、経済的補助を行うことにより、優秀な留学生を確保して本学の国際化推進の一助となることを期待したい。



16) The establishment of a scholarship program for privately financed international students.

The scholarship program for privately financed international students has been in operation since the academic year 2024. A student enrolled in the Department of Apparel and Space Design, Faculty of Home Economics was selected for the Special Scholarship for Privately Financed International Students with Excellent Entrance Exam Score. On May 13, 2024, Director Liu of the International Center presented the scholarship certificate to the student.

By providing financial support to international students who wish to study abroad through this program, we hope to attract outstanding international students and further the internationalization of our university.

17) 本学を修了した留学生の活躍状況

今回は嚴穎さんを紹介します。嚴穎さんは広東海洋大学の出身で、2018 年本学のサマープログラムに参加し、翌年の日本語プログラムを経て 2020 年 4 月本学の大学院に進学し、文学研究科坂口満宏教授（当時）の指導の下で近代日本美術史を専攻しました。修了後中国に帰り、現在広州商学院外国語学院の講師として活躍しており、2024 年全国大学外国語教学コンテスト日本語専門部分の三等賞受賞の実績をあげました。留学生生活を顧みて、「京都女子大学での留学を通じて、視野を広めただけでなく、研究の面においても自分自身の独立性においても大いに飛躍的な進歩を遂げた」と述べました。



17) Activities of international students who have graduated/completed their studies at KWU

We would like to introduce Ms. Yan Ying. She is a graduate of Guangdong Ocean University, participated in our summer program in 2018, and after completing KWU's Japanese language program the following year, entered our graduate school in April 2020, majoring in modern Japanese art history under the guidance of then Professor Mitsuhiro Sakaguchi of the Graduate School of Letters. After graduation, she returned to China and is currently working as a lecturer at Guangzhou College of Commerce, School of Foreign Languages, where she won third prize in the specialized Japanese section of the 2024 All-China University Foreign Language Teaching Contest. Reflecting on her study abroad experience, she said, "Studying abroad at Kyoto Women's University not only broadened my horizons, but also helped me make great strides in my research and independence".

編集・発行

京都女子大学 国際交流センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35

35 ImagumanoKitahiyoshi-cho, Higashiyama-ku, Kyoto 605-8501 Japan

Phone: +81 75-531-7078

Facsimile: +81 75-531-7227

E-mail: kokusai@kyoto-wu.ac.jp

URL: <https://www.kyoto-wu.ac.jp/>